

令和元年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立岐阜北高等学校

学校番号

2

<p>1 学校教育目標</p>	<p>1 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。 2 確かな学力を身に付けさせ、創造的思考力と主体的実行力とを併せ持つ生徒を育成する。 3 品性がありグローバルな視野と地域社会に貢献できるたくましい実践力とを兼ね備えた人間性豊かな生徒を育成する。 4 倫理観や規範意識に基づく社会性を育むとともに、他者を思いやる心に富む生徒を育成する。 5 健康維持や体力づくりを推進し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する。</p>
<p>2 現状の分析</p>	<p>○誠実で礼儀正しく、スマートな生徒が多い。頭髪・服装・行動ともに突出する生徒は少ない。人間関係も落ち着いている。 ○部活動への加入率は、全体で約90%と、文武両道を目指す生徒が多い。ここ数年の進学実績は、国公立大学を中心に堅実な成果（国公立合格者約200名前後）をあげている。平成31年度入試では現役で、東京大学1名、京都大学に3名、名古屋大学21名、岐阜大学医学部医学科3名が合格するなど難関国立大学にも健闘した。 ○生徒、保護者を対象とするアンケート（令和元年7月実施）では、本校の教育方針・学校経営、家庭との連携、教職員、学習指導、生徒指導、進路指導、健康管理・安全指導、学校行事等の各分野において、生徒は39項目中、38項目、保護者は40項目中、36項目において、80%以上の肯定的な評価を得ている。特に保護者アンケートでは、6つの項目において昨年度より高い評価が得られた。 ○本年度の入学生より単位制を導入した。1年生の数学と英語で分割授業を実施し、基礎学力の定着を図った。 ○「地域共創フラグシップハイスクール事業」（ふるさと教育、県教育委員会研究指定事業）の初年度として、1、2年生を中心に探究的な学習に取り組んだ。1年生では「地元岐阜の活性化のための方策」をテーマに、また2年生では「発展途上国の開発援助のための方策」をテーマに実施した。 ○「進学指導重点校事業」（平成29年度より、県教育委員会研究指定事業）の最終年度として、高い志を持つ生徒の継続的な育成をすすめるとともに、令和2年度からの大学入試改革を踏まえた進学指導体制を構築した。 ▲交通安全指導については、年間を通して定期的実施しているが、自転車通学の生徒が多く、登下校時の自転車事故を完全に防ぐことが難しい状況にある。今後も細心の注意を払って指導する必要がある。</p>
<p>3 学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制導入による、きめ細かな進路指導や多様な学び・探究的な学びの実現 ・県教育委員会研究指定（進学指導重点校事業・地域共創フラグシップハイスクール事業）の推進 ・本校進学実績の一つの指標となっている名古屋大学等、難関国立大学への合格者数の増大 ・特別活動、学習活動等において、生徒が積極的に地域社会と関わる教育活動の推進 ・教員間の情報共有、連携による組織的な教育相談体制の構築 ・グローバル精神を育む国際交流活動の推進 ・学校ホームページ、一斉配信メール、各種メディアを積極的に活用した広報活動の推進 ・AL型授業、探究活動に適したICT環境の整備 ・校内防災体制の不断の見直し
<p>4 今年度の具体的な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 進学重視型単位制高校としてのコンセプトの確立 平成31年度入学生の教育課程を着実に実施するとともに、3年間で進学重視型単位制高校として基盤をつくる。 ◇ 県教育委員会研究指定事業（地域共創フラグシップハイスクール事業・進学指導重点校事業）の推進 <ol style="list-style-type: none"> 1 地域共創フラグシップハイスクール事業 グローバルな視野をもって、地域課題を発見、解決する探究的な学びを通して、地域創成などの様々な分野で活躍できるリーダーを育成する。 2 進学指導重点校事業 高い志を持ち、難関大学を目指す姿勢・学習を継続していくことのできる生徒の育成を目指し、大学入試改革に対応した新しい進路指導体制を構築する。 ◇ AL型授業の推進とICT環境の活用 今年度から導入された、ホワイトボード、プロジェクター、書画カメラ等を有効に活用する。

年 度 目 標			年 度 末		成果と評価	11 総合 評価
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果○と課題▲	
学習指導	<p>①進学重視型単位制の教育課程の実施と基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制の共通理解 ・履修方法の説明及びその登録 ・主体的・探究的学びの研究 ・ICTを活用した学びの充実化 <p>②生徒が中学校へ出向き、中学生に学習指導や進路のアドバイスを行うボランティア（スタディサポーター）を実施する。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制教育課程のコンセプトを生徒に理解させることができたか。 ・進路に応じた履修登録ができたか。 ・ICTを活用して効果的に授業を行うことができたか。 <p>②スタディサポーターの学習ボランティアに自主的に参加し積極的に活動することができたか。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会で丁寧に説明を行い、周知した。 ・担当が個別に面談を行い生徒の進路に応じた選択を行った。 ・各教室にICT機器が整備され、PC、書画カメラ、プロジェクター等を効果的に使うことができた。 <p>②第1回は3校（本校生徒38名、中学生219名参加）で実施し、第2回は3校（本校生徒19名、中学生59名参加）で実施した。</p>	A A	<p>○カリキュラム委員会、各教科、学年会と連携をとりながら単位制の実施に向けて取り組むことができた。</p> <p>○職員の意識改革につながることもあった。</p> <p>○探究的な学びについては、他教科との連携をしながら本格的に取り組めることができた。</p> <p>○実施後のアンケートでは、高校生、中学生ともに有益な時間を過ごすことができた大変好評であった。今後も継続していきたいとの希望が寄せられた。</p>	A
進路指導	<p>①入試形態の多様化に対応するため、3年生を対象に小論文の基礎指導を外部の講師に行ってもらうことで、その後の指導の深化を図る。</p> <p>②1年生を対象として学部系統別説明会を実施し、早期の目標設定を目指す。</p> <p>③様々な職業に就いている本校OBの講演を通して、自己の生き方と職業の世界への知見を広め、主体的な進路選択の一助とする。</p> <p>④東京大学研究室見学や名古屋大学出前授業（年4回）を実施し、高い進路志望の醸成に繋げる。</p> <p>⑤入試改革に向けて2年生保護者・生徒に対し新入試ガイダンスを実施する。</p>	<p>①参加者アンケート及び添削答案により、力がついたかどうか。</p> <p>②参加者アンケートや進路志望調査により進路志望が具体化したかどうか。</p> <p>③生徒の活動の記録や参加者アンケートにより、キャリア意識が高まったかどうか。</p> <p>④参加者アンケートにより、進路意識の高揚がみられたかどうか。</p> <p>⑤参加者アンケートや活動の記録により、新入試への理解が深まったかどうか。</p>	<p>①60分×2コマを4日間実施。志望理由書の書き方から小論文の基本・実践まで丁寧な講座であった。生徒の評判もよく、特に文系の生徒からは現代文の記述の演習にもなったと好評であった。</p> <p>②2系統の話聞くことにより進路選択が具体化し、文理選択の参考になった。</p> <p>③普段の講話と違い、様々な経歴を持った社会人の話は興味深く、参加者には好評であった。一方、参加者が少なく効果は限定的であった。</p> <p>④実際に大学での研究の一端に触れることにより進路意識の高揚に繋がった。</p> <p>⑤配布資料やプレゼンに工夫を凝らしたが、相次ぐ政府の方針転換で無意味なものになってしまった。</p>	A A B A -	<p>○様々な企画を通して進路意識や学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>○小論文を使う入試が拡大していく中で、指導の在り方や添削の方法を学ぶことができた。また小論文に対する生徒の不安感を和らげる効果もあった。</p> <p>▲自分のキャリアを意識した主体的な進路選択ができることを目指したが、キャリア意識の醸成までには至らなかった。</p> <p>▲入試改革について方針転換が相次ぎ、具体的な対策を立てることができなかった。</p>	A

生徒指導	<p>①北高生としての誇りを持たせ、社会のリーダーとしてふさわしい人間形成を図る。(イエローカードを活用した指導)</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 命を大切にする教育を進め、薬物、防災や交通安全教育を推進する。 情報社会への理解を深め、情報を正しく運用する能力を育成する。 県のネットパトロールとの連携を図る。 <p>③対話を通して信頼関係を構築する教育相談に努め、一人一人の自己有用感を高める。検査や調査の分析結果から現状を把握する。</p>	<p>①授業規律の確立、場に合った挨拶、端整な身だしなみができているか。</p> <p>②交通事故、交通マナー違反、情報モラル違反の件数が前年度に比べて、減少したか。</p> <p>③校内、保護者、関係機関との連携により、生徒の援助が適切に行われたか。必要な情報や資料を生徒や保護者に適切に提供できたか。</p>	<p>①毎月2回の身だしなみ指導を生徒指導部が昇降口で行うだけでなく、教室において担任から服装チェックを行うことでより有効な指導ができた。また、生活委員・MSLによる挨拶運動も行ったが、進んで挨拶ができない生徒もいた。</p> <p>②校外交通指導、ハザードマップの作成、指導部通信(Kashiwa)、北署の生活安全課長、交通安全課長による生活安全講話によって啓蒙活動を行った。</p> <p>③支援が必要な生徒については、学年会、教育相談係、部顧問、教科担任などで情報を共有し、組織対応で取り組むことができた。特に今年は教育相談係が1人増加し、また特別支援教育支援員も加わり、昨年以上に教育相談に関わる生徒に対してサポートすることができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○大きな問題行動はなく、服装の乱れも気になるほどではない、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。</p> <p>▲自ら進んで挨拶がする習慣をつけさせたい。</p> <p>○不審者情報など生徒へ伝えるべき情報を、指導部通信(Kashiwa)を出し、素早くクラスへ発信し、注意喚起をすることができた。</p> <p>○自転車による交通事故は、4月は0件だったが、5月に8件発生、と月によって差があり、件数だけ見ると昨年より10件減少している。幸いに今のところ大きなケガもなく、命の大切さについて今後も継続指導していく必要がある。</p> <p>▲自転車のマナーに対する苦情の電話やメールを数件もらっている。マナーについての指導を今まで以上にやっていきたい。</p> <p>▲情報モラル違反については、軽微な違反が発生しているので、今後も注意していきたい。</p> <p>○教育相談では、今後も支援が必要な生徒を早期に発見し、連携して対処に努めていく必要がある。</p>	<p>A</p>
特別活動	<p>①HR活動を幅広い人間関係を育てる場として、一人一人が積極的に参加出来る機会を設ける。</p> <p>②学校行事および生徒会・委員会の活動において、生徒が主体的・自発的に企画立案・運営する中で、想像力・実践力を育成する。</p>	<p>①北高祭や球技大会において、生徒が自主的・自発的に企画・立案・運営できたか。</p> <p>②生徒が委員会活動や学校行事に自主的に参加して、満足感・達成感を得られたか。</p>	<p>①文化祭におけるクラスの発表など、どのクラスもクラス一丸となって取り組み、盛り上がる事ができた。</p> <p>②ボランティア清掃活動、岐阜希望が丘特別支援学校との交流など、生徒が地域社会の一員として貢献し、社会生活における規範意識を高めることができた。環境衛生活動優良校として表彰された。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○生徒会活動や部活動における生徒同士の協力により、コミュニケーション能力が育成された。また、目標を達成するための強い意志と、広い視野を身に付けることができた。生徒は大きな成就感を得ることができた。</p> <p>▲今後の課題として、熱中症や台風などの災害への対応を考え、北高祭の開催時期や開催方法の検討が必要である</p> <p>▲学校行事や部活動の成果をHPなどで更に積極的に広報していきたい。</p>	<p>A</p>

	③部活動を高校生活における重要な活動として、自発的な加入と活発な活動を呼びかける。	③部活動に積極的に参加し活動できたか。	③部活動加入率は89%。全国大会に出場した水泳部・放送部をはじめ、どの部も精力的な活動ができた。	A		
保健管理	①定期健康診断や保健行事等を通じて健康管理についての意識を高める。 ②環境衛生活動の充実 ③事故や感染症への対策の充実(職員の危機管理意識の向上)	①定期健康診断後の受診率の向上に繋がったか。また、健康管理についての意識の変容に繋がったか。 ②学校薬剤師と連携して、環境衛生の定期検査と日常点検の結果を、環境づくりに繋げることができたか。 ③事故発生時の救急体制や、食物アレルギー対応の徹底を図るとともに、情報を共有して事故防止に努めることができたか。けがや感染症の拡大を防ぐために早期対応や予防の意識を高めることができたか。	①定期健康診断の事後指導は、特に所見者が多い歯科と視力に重点を置いた。その結果、12月現在の受診率は、歯科が60.0%、視力が58.1%で昨年度比較ではやや低いので、再度受診勧告をしたい。生徒救急法講習会、熱中症予防講習会の健康啓発活動を積極的に行った。「保健だより」と「健康スクープ」(広報プリント)により、タイムリーな内容で啓発を繰り返した。 ②学校薬剤師との連携を強化し、環境衛生活動の指導助言を受けて、できる限りの改善を進めることができた。黒板照度が足りていなかった特別教室の改善を行った。 ③職員の危機管理意識の向上を図るための研修、啓発、タイムリーな情報提供を積極的に行った。けがや感染症予防についても同様に行った。	A A A	○学校保健計画や保健室経営計画に基づいて、常に課題を持ちながら意欲的に保健管理や保健指導に取り組むことができた。 ○生徒委員会活動の活性化も図り、環境衛生活動の更なる向上ができた。その成果もあって『学校環境衛生活動優良校』の表彰を2年連続で受けた。 ○職員の危機管理意識の向上を図るため食物アレルギー対応(エピペン)のシミュレーション講習を実施した。その直後に実際にアナフィラキシーを発生した生徒が現れたが、教員は連携して適切な対応が出来た。	A
安全管理	①校内安全点検を日常的に実施し速やかに改善を図る。 ②災害事故発生等の緊急時対応の流れを確認するとともに、命を守る訓練の充実を図る。	①掃除監督者による日常的な安全確認がおこなえたか。また、修繕が必要な場合は速やかに修繕が行えたか。 ②命を守る訓練の実施を効果的に実施することができたか。	①定期的に校内安全点検に加え、日常的な点検も実施し、安全を確保することができた。また、修繕は可能な限り速やかに対応できた。 ②想定異なる命を守る訓練を年3回実施することができた。	A B	○校内安全点検と修繕については、概ね効率よく進めることが出来た。 ▲命を守る訓練の内容をさらに充実させることで、防災意識の高揚を図っていきたい。 ▲危機管理マニュアルの見直しを行い、生徒・職員ともに防災意識の向上を図る必要がある。	A
カリキュラムデザイン	①各教科でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善を行う・各教科で研究授業を行う・全職員による公開授業の実施 ②探究学習実現のための職員研修の実施 ③探究学習の実施	①研究授業、公開授業の実施状況はどうか、生徒による授業アンケートによる評価する。 ②職員研修の実施実績と職員へのアンケート調査により評価する。 ③生徒へのアンケート調査により評価する。(1月)	①全職員による公開授業については、日程の関係等により、すべての教員が実施できたわけではなかった。 ②講師を招き、研修を1回実施した。職員からのアンケートから、意義のある研修であったと評価できる。 ③2年生が名古屋大学を訪問し、大学院生向けに英語でプレゼンテーションを実施した。1年生では地域課題につ	B A A	○次期学習指導要領を意識し、社会の変化、入試改革に対応するための取組を実施することができた。具体的には探究学習についての研修や、探求活動の実施である。 ▲全職員による公開授業について、すべての教員が実施できたわけではなかった。実施方法の工夫が必要である。	A

	④新カリキュラム施行に向けての北高ポリシー作成	④現状に合う北高ポリシーができたかどうかで評価する。	いて情報の授業と連携し取り組んだ。参加生徒からは、多くの収穫があったという好意的な感想が多く寄せられた。量的な調査は1月にアンケートで実施予定。 ④生徒を含めたがやがや会議、北高活性化プロジェクトの立ち上げをし、1月には北高ポリシー決定予定。	A	
--	-------------------------	----------------------------	--	---	--

II 学校関係者評価 (令和2年1月15日実施)
<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観では、とても真面目に取り組む姿が見られた。ICT機器の利用については、先生が書くことに時間を取られることなく、時間を有効に使うことができていた。 ・進学重視型単位制高校となったメリットを生かしてほしい。カリキュラムの柔軟性を生かし多様な学びを展開してほしい。 ・自転車関係の交通事故が多いとのことだが、加害者になることもあるので、可能な限り任意保険加入についてすすめてほしい。 ・不登校、学校不適應の生徒については、自己理解を深め、自らの決断を大切にする指導をお願いしたい。また、教員は、生徒の内面をとらえるような繊細な感覚を磨いてほしい。 ・発達障がいの子の生徒の支援も個別の支援計画を立てるなど、きめ細かく行ってほしい。 ・世間ではSNS関係の事件が多く起こっている。情報モラルの指導など積極的に実施してほしい。 ・北高活性化プロジェクトについては、生徒や教員の負担にならないか、配慮しながら実施してほしいが、まずプラス思考でやってみることを大切にしてほしい。なお、このプロジェクトについては学校評議員の方やPTAの執行部の方との意見交換の場をもつことを検討したい。

12 来年度に向けての改善方策案
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学び、探究的な学びができる進学重視型単位制高校の在り方を常に追究し、現行のカリキュラムを着実に実施するとともに、新学習指導要領実施に向けた新カリキュラムの検討を行う。 ・「進学指導重点校事業」4年目に向けて、大学見学、出張講義、学部系統別進学説明会、教員研修等の各内容を精選し、3年間で段階的かつ効果的に進路意識の高揚を図ることができるよう、進路指導体制の見直しを行う。 ・2年目となる「地域共創フラッグシップハイスクール事業」では、令和元年度の取組をさらにブラッシュアップさせ、本校における探究的な学習の在り方について検討を重ね、大学卒業後に地域創生などの様々な分野で活躍できるリーダーを育成する。 ・発達障がいや性的問題等、社会の多様化が進む中、個に応じたきめ細かな指導を行うとともに、お互いが認め合い、支えあう学校づくりを目指す。 ・自然災害や交通事故から、自らの命は自らが守る指導の徹底を図る。